

21. ブラウントラウト *Salmo trutta* Linnaeus

図版 7

英名 brown trout (淡水型*)、sea trout (降海型*)

露名 ルチエワキ フォレリ ручьевая форель

地方名(北海道) ブラウン

【形態】 頭部は側扁*し、尾柄*は太い。尻びれ基底*の長さは、そのひれの高さより短い。尾びれ後縁はあまり湾入せず、大型の個体では直線的。体の背側*は黄土色に近い褐色で、腹部は白色あるいは薄い黄色。降海型*の体の背部は青色が強く、体側は銀白色である。頭部から背側には薄い色で縁どられた大型の黒点が散在する。側線*付近と脂びれ*に白く縁どられた朱点が分布するが、大型の個体では欠くものもみられる。幼魚*の体側には9~14個のパーマーク*がある。

大型の個体はニジマスに似るが、体側に紅色の縦帯*がないこと、尾びれの黒点がないか、あっても色が薄く少ないことなどでニジマスと区別できる。性成熟*した雄は上下のあごが伸長するので、雌雄の見分けが容易である。

北海道の支笏湖では、1999年3月に全長*92cm、体重14.2kgのものが釣られた。またカスピ海の系群*では、125ポンド(56.6kg)に達するものが記録されている。

【生態】 原産*地はイギリス諸島を含むヨーロッパ、西アジアおよびアフリカ大陸最北部である。現在は移殖*によって、北米、南米、タスマニア、ニュー

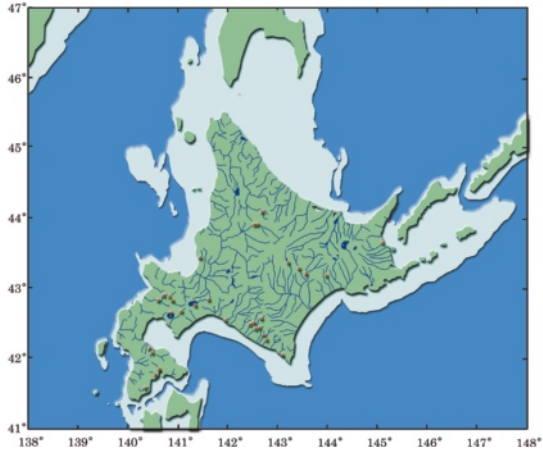
ジールランド、オーストラリアなど世界各地に分布する。日本へは、明治から昭和初期にかけてアメリカからカワマスあるいはニジマスの卵に混じって移入されたといわれている。

北海道での歴史は比較的新しく、1980年9月23日に日高地方の新冠ダム湖で採捕されたのが初記録である。その後、主として釣り人による放流のため分布は急速に広がり、1997年までに日高地方を中心に18の水系*に生息していたことが、道立孵化場の調査で確認されている。また支笏湖への流入河川では自然産卵も報告されている。

北海道における生態は、分布、食性、産卵生態に関して断片的な知見があるのみで、あまり多くは知られていない。北海道では湖や河川の上流から中流にかけて生息する。

原産地でシートラウトと呼ばれる降海型が、北海道でも胆振、渡島、後志、留萌地方沿岸で定置網や釣りで採捕されている。特に胆振地方の厚真町沿岸では冬季にかなりの数が釣られているようである。原産地の降海型は多くが雌であり、春から初夏にかけて降海*する。沿岸回遊*性が強く、沖合には出ない。海洋生活期間は地域、個体による変異が大きく、2カ月から4年を海で過ごした後、河川にもどり一部は産卵する。雌は一生涯に数回産卵し、多いものでは13回以上も産卵した例がある。産卵回数が増すにつれ、親魚が産卵後に死ぬ割合が高くなる。

産卵期は栃木県中禅寺湖への流入河川では9月下旬～11月上旬、支笏湖への流入河川では12月中旬～翌1月上旬といわれている。産卵床*はほかのサケ科魚類と同様に、淵*から瀬*に移行する部分の砂れき*底につくられる。サクラマスやアメマスに比べ産卵期が遅いため、北海道では稚魚*が浮上*するのは初夏になる。浮上直後からなわばりを持ち、ニジマスよりも浅く流れの緩い所を好む。尾叉長*が25cm前後になるまでは、水生、陸生の



北海道におけるブラウトラウトの分布
(鷹見・青山、1999を改変)

昆虫、甲殻類、小型魚類などを食べ25cmを超えるころから魚食性が強まる。

北海道に生息する本種の成長と性成熟についてはよく分かっていない。原産地の河川型*ブラウントラウトは、一般的にニジマスより成長が遅いといわれている。フランスの山地では、浮上後1年で尾叉長6～14cm、2年で9～26cm、3年で12～35cmになり、雄は生まれてから1年で性成熟する個体もあるが、ほとんどは2年で成熟*する。一方、雌は2年で成熟する個体もあるが、ほとんどは3年で成熟する。

ブラウントラウトは移動性が強く、異なる環境への適応性に優れており、餌の豊富な場所を求めて支流から本流に、さらには湖や海へと移動する。その結果、移動した個体は成長が良くなる。寿命はふつう5～8年であるが、23年生きたという記録もある。湖や海に移動し長生きする個体は、ニジマスよりも大きくなる可能性が高い。